



年頭所感

会長 長瀬 清

謹んで新春のお慶びを申し上げます。会員ならびにご家族の皆様には、揃って佳いお年をお迎えのことと存じます。

昨年は北海道経済が少しも回復を見ないうちに、米国でのサブプライムローン問題による経済不況が瞬時に全世界を駆けめぐり、日本もその煽りを受け厳しい状況に至っております。加えて石油価格の高騰がわれわれの生活に大打撃を与えています。

超短期政権であった安倍、福田内閣の後を継いだ麻生内閣は、早期に衆院を解散し総選挙かと誰もが思いましたが、世界的経済不況の中、景気回復が先決と選挙のタイミングをつかめないうちに、いたずらに時を過ごしている感があります。

年末になって、相次いで首相の見識が疑われるような発言があり、北海道医師会をはじめ多くの医師会から抗議が相次ぎました。

アメリカでは、長い選挙戦の結果、米国史上初めての黒人大統領が国民の圧倒的支持により選出されました。本年一月よりアメリカの舵取りを始めます。極めて困難な状況の中どのように手腕を発揮するかが注目されます。

医師不足、偏在が、地方の医療崩壊を引き起こしたばかりでなく、都市部においても産科、小児科等の救急医療の危機的状況を招いています。その原因となっている医療費抑制政策と新医師臨床研修制度を直ちに直視すべきです。

北海道医師会は夜間・休日救急医療に対する道の補助金アップを確保し、また前年に引き続いての事業「小児救急地域医師研修会」を行ってきました。加えて、昨年から新規に「地域医療に関わる地域別意見交換会」「緊急臨時的医師派遣事業」等を行っています。

現在の関心事である、福島県立大野病院の産科に端を発した医療に関わる異状死問題の扱い、ならびに「総合医」認定制度創設の件については、強い異論があり簡単には決着はつきそうにありません。十分

な議論を尽くし多くの納得の上で決めるべきです。

北海道の現在の医療事情(医師不足・偏在)と広大な土地(地域の過疎化)からみて救急医療におけるヘリコプターの役割は、道外の他の地域に比較し絶対的に必要であることは論を待ちません。機会ある毎に札幌圏に次いで道東・道北に2機は必要であり、かつ北海道の経済状況からみて国の援助が絶対に欠かせないと説いて回っています。今年はぜひそうなることを願っています。

社会保障の充実が国民誰もが最も望む事柄であり、憲法でも保障されています。しかし現状はどうでしょうか、毎年、2,200億円の社会保障費の削減が当然のように行われています。この社会保障費削減がもう限界であることは、広く認識されています。削減をやめようという声も日々たかまってきています。

慶応大学の権丈善一教授は、社会保障問題は結局財源調達問題に尽きると言っています。そのためには三つの方策があり、第一は、国民が社会保障費の負担増をすること。第二は、特別会計をはじめ、国の財政上の無駄を省いて剰余金をつくること。第三は、社会保障費を最小限に止めることである。われわれはどの道を選ぶか、正念場に立たされています。正しい道を選ばなければ、暗い未来を招くことになるでしょう。

北海道医師会は、極力会員の皆様方と顔を突き合わせ、生の声を聞こうと努力しています。上位下達でなく下位上達が必要と考えているからです。各担当部の理事・職員が各地に出向き地域の役員や一般会員の先生方と親しく話す機会を数多く持つよう努力をしています。

今年も同様の考えでやりたいと思っています。会員各位の今後一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

会員ならびにご家族、職員の皆様が今年一年ご健勝でご活躍されますことを心から祈念申し上げます。

CONTENTS

北海道医報
平成21年1月1日 第1084号

年頭の辞／年頭所感	長瀬 清	2
年頭所感	唐澤 祥人	4
年頭所感	高橋はるみ	5
医の倫理綱領		7
報告／平成20年度 病院団体懇談会	北野 明宣	8
平成20年度 医政講演会	直江寿一郎	9
第25回 道州制特別区提案検討委員会	直江寿一郎	10
平成20年度 勤務医部会全体会議	北野 明宣	11
「医療安全研修会ワークショップ」を各地で開催	山本 直也	12
寄稿／北海道ドクターヘリの出動実績と課題	高橋 功	13
税務相談室／確定申告について (その1)	中村 孝一	16
随筆／医事・文談	天涯茫茫生	17
北海道医歌人会詠草		18
特集／新春随想		19
郡市医師会だより／上川郡中央医師会 学術講演会	加藤 一哉	50
新規指定医療機関		51
医学会・医学講演会等 開催情報		52
中央52 道南55 後志56 日胆56 空知56 道北57 北見58 道東58		
会議室／第15・16・17回 常任理事会		60
道医の動き		67
訃報		68
売貸医院・医師招聘情報		72
道医師国保の頁		76
季節風／百年の計	藤原 秀俊	82

お知らせ

電子メールによる会員への情報提供④7／第43回 北海道ドクターズゴルフ大会開催予告④9
国民年金保険料の滞納について④9／認定産業医制度 研修会一覧⑤9
認定健康スポーツ医制度 再研修会一覧⑤9／道医サポートセンターのご利用について⑥8
ホームページフォトギャラリー作品募集⑥9／個別融資相談会の開催について⑦0
第48回 札幌市医師会邦楽大会⑦1／電子メールアドレス発行申し込みのご案内⑦8
グループ保険のご案内⑧1

北海道医師会会員数 8,462名 (+5) うち日本医師会会員数 6,204名 (+10)

A	2,599名 (±0)	B2	4,529名 (+3)	C2	187名 (±0)
B1	554名 (+3)	C1	105名 (±0)	C3	488名 (-1)

平成20年11月30日現在 () 内前月比

北海道美の遺産

作品介绍

まつ しま まさ ゆき

松島正幸 札幌雪日

1910 (明治43) 年～1999 (平成11) 年

雨竜郡一己村 (現・深川市) 生まれ。前半生の画号は正人。
1943 (昭和18) 年の作品。油彩、キャンバス (97.0×130.5)。

太平洋美術学校に学び、二科展や独立展に出品。1941 (昭和16) 年、独立賞を受賞し1947年に会員になった。また、全道美術協会 (全道展) の創立にも貢献した。

北海道をはじめ各地の風景を重厚な作風で描き、街頭風景を得意とした。なかでも冬景色、とくに黄昏時を描いた作品は秀逸で、風景画家としての本領が発揮されている。戦前の札幌を三越

百貨店の屋上から描いた本作は、当時の街並みを知る貴重な資料ともなっている (画面右端の塔は札幌消防本部の望楼)。

1962 (昭和37) 年から南仏に長期滞在。カンヌやカーニユなど陽光あふれる風景を伸びやかな筆致、明快な色調で描き、新境地を開いたが、光や大気の描写に対する独特の感覚は一貫していた。また、本格的な油絵の具のマティエールを体得した画家としても高い評価を受けてきた。

1990 (平成2) 年、岩見沢市に「絵画ホール・松島正幸記念館」が開設されている。また深川市の「アートホール東洲館」にも多数の作品が展示されている。

(資料提供：北海道立近代美術館)